

【小4・総合・「ネギ☆プロ～下仁田ネギ広めプロジェクト」】①

育成を目指す資質・能力

下仁田ネギの魅力動画を伝える活動を通して、情報収集や動画の作成の仕方を理解し、必要な情報を選び出し、整理したりしながら適切に相手に伝える方法について考えるとともに、地域の活性化のために自分にできることを見付けようとするができるようにする。

ICT活用のポイント

- ①ロイロノートを用いた動画作成(絵コンテ・音声吹込み)→自由度が高く、発想によって児童主体な活動が期待できる。
- ②教育支援ソフトを用いた相互評価→瞬時に全員の意見を確認でき、整理・分析を行いながら作品の改善に役立つ。

事例の概要

<探究の1サイクル目>

【下仁田ネギの栽培体験】→【思いや魅力発信のため調査活動】
→【新聞で3年生に紙面発表】

3年生に伝えただけじゃ足りない。
もっと発信しなきゃ!



<新たな課題の設定>

生産者へのインタビューで思いを知る。
「ターゲットは大人だ！おいしさを伝えたい！」

- ▶ インタビューを通して生産者の思いを知り、「下仁田ネギの魅力を大人に発信すれば、下仁田ネギがもっと有名になるだろう。」という仮説を立て、新たな課題「下仁田ネギのおいしさをもっと多くの人に発信しよう」を設定。

<情報の収集⇔整理・分析>

- ・PRに効果的なメディアについて調べる。
- ・ロイロノートを使ってPR動画のコマ割りや音声を考える。
- ・相互評価によってよりよいものにしていく。
- ・生産者に動画を見てもらいアドバイスをもらう。

- ▶ 新聞やポスターなどの広告のほかにも、CMやYouTubeなど、動画による宣伝など、様々なメディアがあることに気づき、それぞれの良さについて話し合う。
- ▶ これまで調べてきたことやインタビューで知ったことなどをもとに、ロイロノートを利用して、動画のコマ割り(絵コンテ)を作成し、台詞やナレーションを考える。【ICTの活用場面①】
- ▶ コマ割り動画を互いに見合い、その評価を改善点とともに学習支援ソフトで共有し、他者のアドバイスを参考に動画をよりよいものになるよう修正する。【ICTの活用場面②】
- ▶ 動画を生産者に見てもらい、専門家の目線でアドバイスをもらって動画を完成させる。

<まとめ・表現>

販売所でPR動画を実際に流してもらう。
→【振り返り】売り上げ状況から活動の効果を検証

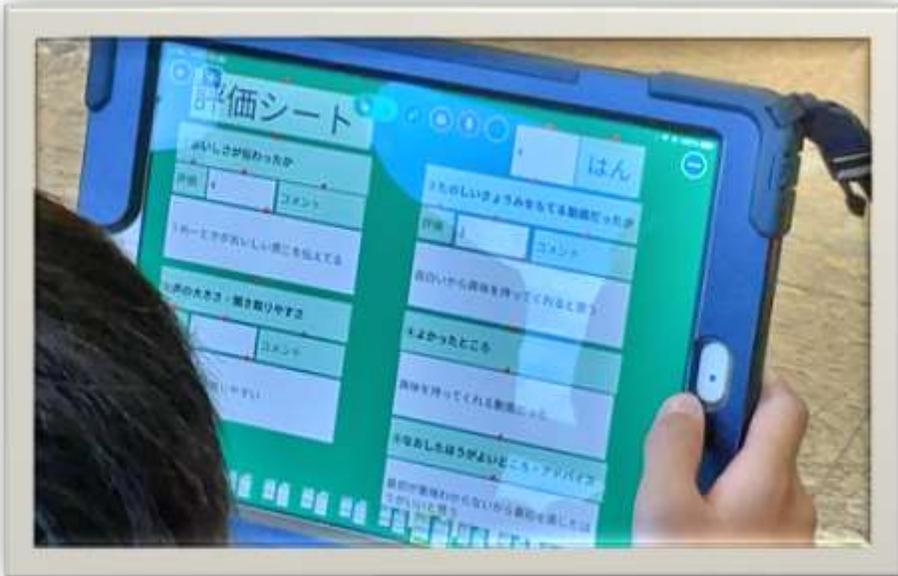
- ▶ 販売所で完成したPR動画を流す。
- ▶ 下仁田ネギの売上額を昨年度と比較し、発信の効果を検証するとともに、単元全体を振り返る。

【小4・総合・「ネギ☆プロ～下仁田ネギ広めプロジェクト」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②】



【場面①】表現の幅を広げるICTの活用

学習の成果を表現する方法として、これまで紙面にまとめて発表することが多かったが、ICTを活用することで、プレゼンテーションのほかにも、デジタルポスター、リーフレット、動画作成など、**各自の端末で思いを形にし、地域へアウトプットする表現の幅を広げることができるようになった。**

本実践例では、計画の段階でネギのおいしさや栄養価、レシピの動画などの案が出ると予想していたが、つかむ場面で生産者のインタビューを取り入れたことで、全ての班が「おいしさ」をテーマに動画を作成することになった。

また、ロイロノートを使ってコマ割りを作り、実写動画の準備を進めていたが、いくつかの班はコマ割りを元に、イラストによるCMをつくるという新しいアイデアを生み出していた。**ICTの活用により、児童主体の表現活動となっていた。**

【場面②】学習支援ソフトを活用した相互評価の充実

学習支援ソフトを利用し、お互いの作品を相互評価する活動を設定していた。これまでも中間発表など成果物をお互いに評価する活動は取り入れられていたが、**ICTを活用することで、瞬時にクラス全員の評価を確認することができ、いつでもこれらの情報を整理・分析しながら自分たちの作品の改善に生かすことも可能となった。**

児童同士の評価については、探究の目的意識や相手意識といった視点をしっかり押さえてから行うことが重要で、単に「声が小さかった」「聞きやすかった」といった発表の仕方に対する評価では、整理・分析の充実を図ることは難しいと考えられる。

本実践例では「〇〇という言葉がおいしい感じを伝えている」「大人に伝わるセリフにするといい」といった意見が出ていた。